

<< Coffee break Talk.12 ~ お気に入りの一枚 ~ >>

支部長 今林 光秀

コロナ禍が明けて初めての大型連休GW。4月30日、5月1・2日を休めば10連休となり、以前なら「いざ海外旅行へ！」となるところであるが、昨今の円安と海外インフレもあり躊躇する。経済に詳しくはないものの建築も経済活動の一環であり多少は意識するが、日経平均株価の急上昇(あっさりバブル期更新)の一方で進むばかりの円安は魔訶不思議。失われた30年を取り戻しただけで株価は今後も上昇するという論評も聞くが、日本の人口減少問題を考えるといつまでも日本の株価が上昇し続けるとは思えない。日米金利差から今の円安と言われるが為替は国力を映す鏡と考えるのならば、日本の国力はこの程度なのかも知れないと思う。どうも最近の株価指数や為替変動は実態を表しているのではなく多くの思惑から動いている感じがしてついて行けず、どうしても慎重な行動となりがちでEnjoyし難い世の中である。

渋い話はこの位にして、私のお気に入りの一枚(Venezia: 5, March 1987)を紹介したい。大学卒業旅行初めてのヨーロッパ自由旅3週間で憧れのVeneziaに行った時の写真である。当時1ドル140円前後。1985年プラザ合意を経て1ドル230円台から翌年には150円台、その後も円高は進み2011年1ドル75.54円を最高に概ね1ドル100~125円あたりで推移してきた歴史を見れば今の1ドル155円超は異常に思え、海外旅行は躊躇しがちの情けなさである。

もう為替の話はしない。この旅行は Paris Vienna Venezia Firenze Roma Barcelona Madrid と巡ったユーレイルパスでの貧乏学生一人旅。当時はEUではなく各国境で検問受け、通貨も異なり慣れたと思ったら次の国、各国の小銭だけがお土産に残った。若い時にしかできない貴重な体験で、人生でこれに勝る学びを得たことは未だかつてなく、こんな良き旅は今ではもうできない。



Veneziaの歴史は古く5世紀に遡り、697年にヴェネツィア共和国が始まり、11世紀から繁栄が続き15世紀後半にキリスト教世界では屈指の海軍力を持つ都市国家となる。その後オスマン帝国の進出により最盛期は終わりを告げ、1797年にあのナポレオン・ボナパルトの侵略によりヴェネツィア共和国は崩壊し、その後オーストリアの支配を経て1866年イタリアに併合された。

写真は、中心のサンマルコ広場から東側先端の海の方へ迷宮のような路地をひたすら歩き、庭園を抜けて視界の開けた一瞬に後ろを振り向いた時の一枚。当時デジカメなどは無く大切なフィルム写真です。サンマルコの鐘楼やサン・ジオルジョ・マッジョーレ聖堂などが夕陽と海に映え、手前にはお婆さんが静かに歩いている美しい時。「こんな場所があるのか」と感動した。5世紀からの長いVeneziaの歴史からすれば1987年から今までの37年間などはほんの一瞬。昔も今もこれからも変わらないであろう光景に行雲流水を想う、私のお気に入りの一枚です。

「2024.04.29 GWもCoffeeが美味しい!!」